



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

77

「メの新定番は 思い出の洋食の味」

文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
この冬は随分と雪が多く、気温の低い冬だったね。君の暮らす街でも何度か雪が積もって大変だったようだけど、こちら函館も多くの人が「過去に例がないほどの大雪だ」と口にするほど雪に見舞われた冬だったよ。気温も低くてね、部屋のストーブをつけていても、いつもより2〜3℃低い温度までしか上がらない日が何日も続いた。こうなると、身体の中から温めるのが一番ってことで夕食時にお酒を飲むんだけど、って、ちよつと言いつつほいかな。でも実際に一杯飲んでおくと身体が温まって、布団に入った後も身体が楽なんだ。まあ、たまには外で飲むこともあるけど、あくまでも目的は身体を温めること。君を連れて行くお店の下調べも兼ねているかな。え、人をダシにして飲み歩いているだけじゃないの？ ははは、心外だなあ。君の好きそうなメの一品を探すため、胃を挺して飲み歩いているっていうのに。先日J.R函館駅前の大門エリアを徘徊していたけど、ここ一、二年、随分と飲食店が増えたなあとあらためて感じたよ。古い建物の解体が進み以前のような怪しさはなくなってしまうけど、それがかえってよかったのか、表通りだけでなく裏通りにも気軽に入れるお店が増えているんだ。しかも、新しいお店に触発されたのか、既存のお店も新たなメニューを加えてみたりと、大門エリア全体がとても良い形で盛り上がっている。そこで、久しぶりに大門横丁に行ってみた。ほら、小さな飲食店が集まった屋台村スタイルの飲食街に何度か行ったことがあったでしょ。君を連れて行った頃と比べると新しくなった店もけっこうあって、何か美味しそうなお品はないかなあとかぶらぶらしてみんだ。ラーメンしようか、スイーツ系にしようか、雪のちらつく中、酔い覚ましを兼ねて5分くらい歩いてきたかな。すると急にどこからか、ケチャップを炒めた懐かしい香りが漂ってきた。香りというのは不思議だね、一瞬で記憶を呼び起こしてくれる。このときに浮かんだのは、数年前、青森県の弘前に行ったときに入ったレトロな純喫茶「ルビアン」のナポリタンの記憶。宴会の後、一息つこうと思ってお店に入ったのに、奥の席に運ばれていくナポリタンの香りに釣られてつい頼んでしまったんだ。熱い鉄板に乗せられ、ジュージュー音を立てて香りを撒き散らすナポリタンの美味しかったこと。満腹だったことを忘れて完食してしまう。別バラ系「メ」の一品だったわけ。あの味と再会できるかも、と匂いを辿って行くと、着いた先は以前から度々利用していた洋食居酒屋「孝房」。さつそく扉を開けると、そこにはできたてほやほやの特製ナポリタンを持ったマスターが。「マスター、こっちゃんもナポリタンひとつ！」 挨拶もそこそこにナポリタンを頼んだけど、これがまた美味しいのなんの。いつもは、ふわっとろ玉子が病みつきになるオムライスか、裏メニューのパターライス系オムライスを頼むのが定番なので知らなかったけど、こんな美味しいナポリタンがあるなら早く教えてよ！ マスターの話では、昔から通っていた洋食屋さん「洋食久保」のナポリタンの味を目指して作っているそうで、本人的にはまだまだ自家製の味に及ばないのだとか。残念ながらそのお店は昨年閉店してしまったそうだけど、味はマスターの記憶の中に残っているから、いつかは幻の味にありつけるかな。しばらくはメのナポリタンが定番になりそうだけど、君も春休みになつたら幻の片鱗を味わいおいで。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索